

2022（令和4）年度

全国地域青年「実践大賞」

募集要項

私たち日本青年団協議会は、青年たちの「やりたい」が詰まった実践を募集しています。

全国各地にあるこれらの実践は「今を生きる青年たちだけでなく、
未来を担う子どもたちにとってもかけがえのない宝である」と私たちは確信しています。

全国で活動する青年たちは、日頃の生活のなかで、地元住民との交流や活動などの実践を通じ、
地域を盛り上げる重要な役割を担ってきました。

これらの貴重な実践は、活動している青年たち自身にとっては当たり前のことであっても、
周りの地域や青年たちから見れば新しい学びになります。

こうした学びが結ぶ新たなつながりは、青年団や地域おこしに携わる各地の青年たちにとって、
新たな実践の発掘や郡市町村を超えた絆が生まれる機会にもなっています。

この度、私たちは様々な地域で展開される特色ある実践を集めることで、
相互に学び合い、地域での活動や青年たちの生活をより豊かにするため、
2022（令和4）年度全国地域青年実践大賞を開催いたします。

主 催

日本青年団協議会、一般財団法人日本青年館

1. 対象

青年や青年団体が自主的に取り組む活動実践で、2022年1月から12月までに完了しているもの、もしくは、2022年度内に完了予定のものを対象とします。ただし、当該年度内であれば、応募時以前・以降にわたる継続的な活動や取り組みを推薦してもかまいません。一つの団体から複数応募することも可能です。

2. 応募内容

1) 地域活動の部（地域おこしや地域づくり活動など）

- ①子どもや高齢者など多世代との交流を交えた実践
- ②出会いの創出や過疎対策など、地域の抱える課題に視点を置いた地域づくりの実践
- ③伝統文化や郷土芸能など、地域の芸能を舞台にした実践（芸能保存会事業など）
- ④地域からの要請に応える事業
- ⑤地域で活躍する他団体と一つの目標に向かって協力し合った事業
- ⑥コロナ禍における実践
- ⑦その他

2) 教宣活動の部（仲間の声や思いを引き出し広めるような活動、自分たちをPRする活動）

- ①機関紙（誌）
- ②ポスター、チラシ
- ③活動時に作成したグッズ
- ④ユニフォーム（Tシャツ）
- ⑤映像
- ⑥WebサイトやSNS
- ⑦その他

3. 推薦方法

日本青年団協議会または日本青年団協議会に加盟する道府県団、各都道府県教育委員会、各市区町村教育委員会が推薦する青年団体が推薦してください。その際、必要書類を添えて日本青年団協議会事務局に期日までに送付してください。

4. 必要書類

1) 地域活動の部

- ①推薦書(別添)
- ②アピールレポート

自由記述、設問ありの2種類の書式がありますが、どちらを使用しても構いません。内容はできるだけ具体的に記述してください。

- ③上記のほかに、活動の様子がわかる写真(数点)と新聞掲載記事など応募された実践の内容がわかる資料がありましたらお送りください。

2) 教宣活動の部

- ①推薦書(別添)
- ②アピールレポート(地域活動の部と同様)
- ③作品出品表
- ④作品物(WebサイトなどはURLを記載してください)

BIG CHANCE!!!!!!

審査員が判断する高評価のポイントです

<アピールレポート記入の秘訣>

書くことが活動の振り返りもつながりますので、団員みんなで議論しながら思う存分活動のアピールを考え、次年度以降にさらによい活動にするには、といった話もしていきましょう。第三者に向けて、その実践の内容や魅力を文章で伝えることをふまえ、適度な長さで読みやすい文章作成を意識しましょう。

- 取り組んだ動機、目的、趣旨、ねらいを明らかにしてください。
- 活動の具体的な経過を、団体内の動きと対外的な取り組みの両面から明らかにしてください。
- その活動によって、携わった仲間たち、参画した地域住民、地域社会にどのような影響や成果を与えたかを明らかにしてください。
- 文章が独りよがりになっていないか、読みづらいところはないか、もう一度読み直して、自分で推敲してみましょう。人に伝わる文章をつくるうえでは、声に出して読んでみることも効果的です。
- 過年度実践大賞で「大賞」を受賞している団体のアピールレポートを参考にしましょう。過年度報告書は日本青年団協議会 Web サイトからご覧になれます。

5. 締切日

2023（令和5）年1月23日（月）必着

6. 審査

応募いただいた実践は、日本青年団協議会役員・有識者で構成する審査会にて、審査を行います。

7. 発表

該当する団体および推薦団体（教育委員会含む）に直接通知するほか、日本青年団協議会公式Webサイト（<https://dan.or.jp/>）上で公表いたします。

※WebサイトQRコードは右記



8. 表彰

1) 地域活動の部

・「実践大賞」

活動に常時または定期的に取り組み、地域に大きく貢献し、集められた実践の中で最も優れた実践に取り組んだ団体に授与されます。

・「準実践大賞」

実践大賞に次いで優れた実践に取り組んだ団体に授与されます。

・「実践奨励賞」

長期間にわたり続けてきた活動を行っている実践や、新たな実践に取り組んだ団体などに授与されます。

・「支援実践賞」

青年団体発足を支えた実践や、若者のための施設における実践など、青年活動の支援に取り組んだ団体に授与されます。

2) 教宣活動の部

・「教宣大賞」

教宣活動に取り組み、地域活動や組織活動に大きく貢献し、集められた取組みの中で集められた実践の中で最も優れた実践に取り組んだ団体に授与されます。

・「準教宣大賞」

教宣大賞に次いで優れた実践に取り組んだ団体に授与されます。

・「教宣奨励賞」

長期間にわたり続けてきた教宣活動を行っている実践や、新たに教宣活動に取り組んだ団体などに授与されます。

9. 副賞

すべての受賞団体には賞状が授与されます。また「実践大賞」「準実践大賞」「教宣大賞」「準教宣大賞」には活動奨励金が贈呈されます。

10. 特別賞

上記の賞のほか、下記の団体より特別賞が授与されます。

・田澤義鋪賞

一般財団法人日本青年館より、明正選挙運動、地方自治、地域振興などに取り組み優れた成果をおさめた団体に授与されます。

・全国青年団OB会奨励賞

全国青年団OB会（青年団OB・OGの連絡組織）より、全国の青年団にとって励みとなるような組織の強化及び拡大に顕著な実績をあげた団体に授与されます。

・後藤文夫賞

一般財団法人日本青年館より、地域の伝統的な郷土芸能を青年が真剣にその伝承につとめ、青年団としての取組の中で意欲的である団体に授与されます。全国青年大会郷土芸能の部の出場団体を対象とします。

11. 表彰式

3月18日(土)に予定している、2022(令和4)年度日青協第3回理事会にて実施します。

12. 展 示 (予 定)

教宣活動の部の応募作品は、審査会終了後から3月19日(日)までの日本青年館1階コンコースギャラリースペースにて展示いたします。

13. 雑誌「社会教育」への掲載

一般財団法人日本青年館発行の雑誌「社会教育」に、1号につき1件の受賞実践を掲載してご紹介いたします。ただし受賞件数によっては、すべての受賞実践を紹介できないこともありますので、あらかじめご承知おきください。また、紙面の作成にあたっては、当該受賞団体に追加でお話をお伺いする可能性もございます。

<雑誌「社会教育」について>

1946(昭和21)年7月、社会教育連合会(当時。のちに財団法人全日本社会教育連合会に改称後、2012(平成24)年に一般財団法人日本青年館と合併)から、月刊誌「教育と社会」として発刊。のち社会教育法の制定を期に、社会教育のいっそうの飛躍的展開を図るべく、1950(昭和25)年2月に「社会教育」誌へと改題。2021(令和3)年6月号で創刊900号を迎えた。社会教育に関する情報発信を行うとともに、不定期刊行物の編集発行や調査研究を行ってきた。各自治体教育委員会や社会教育関係者、その関係団体などを読者層の中心として、社会教育のハンドブックとして発行されている。

BIG CHANCE!!!!!!

社会教育に携わる多くの関係者に知ってもらえる
こちらの特典は、入賞者のみが対象です

14. 応募先・お問い合わせ

日本青年団協議会 担当:四至本

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1 日本青年館5階

TEL 03-6452-9025 FAX 03-6452-9026

Email soshiki_kyosen@dan.or.jp

以上